

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住之江区
学校名	加賀屋東小学校
学校長名	富永 成勲

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立加賀屋東小学校では、第6学年 50名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

全国学力・学習状況調査の本校平均正答率を全国と比較すると、国語では0.8%下回ってはいるものの、算数では1.0%上回る結果となった。大阪市平均と比較すると、国語・算数ともには1%上回っている。今年度の国語・算数の平均正答率については、全国平均とほぼ同等であると言える。

国語においては昨年度対全国比(全国の平均正答率を1とした時の大阪市の割合)0.87から0.99と大きく改善している。また、算数においては、0.90から1.02とこちらも大きく改善するとともに、国語・算数ともに経年で見ても改善している。

今年度は理科が実施されたが、本校平均正答率は、全国と比較すると5.1%、大阪市平均と比較しても3%下回る結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

内容別の平均正答率でみると、「書くこと」については全国との差はなく、「話すこと・聞くこと」「読むこと」については全国との差は数%（「話すこと・聞くこと」：-3.9% 「読むこと」：-2.2%）と差がある。とは言え、昨年度よりも全国比で改善傾向にある。これは、これまで色々な文章に触れたり、自分の考えを文章にしたりする活動を行うことで子どもたちの理解が深まった成果だと考えられる。

〔算数〕

領域別の平均正答率でみると、「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」については、いずれも全国平均同等あるいは上回っていることから、昨年度より改善している。「変化と関係」については、全国との差が-1.5%とやや全国平均を下回っているが、これも昨年度より改善傾向にある。これは、「加東タイム」を中心に、基礎基本的な学力の向上に取り組んできたことや、グループでの話し合いを中心に対話的な学びの手法を取り入れ、友だちと意見を交換し、自分の学びが深まるような授業形態を進めてきたことが結果につながっていると考えられる。

〔理科〕

区分・領域別の平均正答率でみると、いずれの区分領域においても全国比を下回っている。特にA区分「エネルギー」を柱とする領域については、対全国比で10%程度下回っている。それ以外の区分・領域についても、対全国比で2~4%下回っている状況である。理科の授業に対する児童の興味関心の欠如実験や観察への苦手意識、指導方法の課題などが考えられる。さらなる学習指導の充実が必要となっている状況である。

質問調査より

学習指導要領の趣旨を踏まえた取組として、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問では、肯定的な評価の割合が76.1%で、全国平均を約9%下回っている。「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童ほど、各教科の正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感等が高く、自分で学び方を考え工夫しているということが調査結果から見えていているため、引き続き、グループや学級での話し合い活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちと意見を交換したりしながら学級全体の学びが深まるような学習「主体的・対話的で深い学び」を推進していく。

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的な回答の割合が76.1%となっており、全国平均・大阪市平均よりも10.8%下回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、肯定的な評価の割合が95.6%で全国平均よりも3.4%上回っている。引き続き、児童のよさを認め、個性を伸長する教育を推進していくようとする。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、100%の児童が肯定的な回答をしている。道徳教育の充実やいじめ防止の各種取組、教育現場での各種指導が結果に表れているものと考えられるが、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対する肯定的な回答は、78.3%で、対全国や大阪市平均と比べて6~8%低くなっている。

今後の取組(アクションプラン)

国語や算数・理科、児童質問紙の調査結果から本校の課題が見えてくる。

学習全般に関しては、学校の教育活動全体を通して、対話的な学びの学習形態を取り入れていくことで、児童の自己の考えを広げ深める能力、他者と協働して問題を解決する能力、主体的に学びを深める力、そして多様な考え方を理解する力の向上を図るようにする。とくに理科に関しては、児童が理科の授業に興味関心を持ち、面白いと感じられるよう、自然の事物や現象に親しむ機会をもち、そこから問題を見出し主体的に追及していくことができるような授業づくりを進める。意図的な活動の場を工夫することを通して、児童が理科の面白さを感じたり、理科を学ぶことの意義や有用性を認識したりすることができるようにする。そのために、外部人材を活用した出前授業の実施や児童の学びの環境の充実を図る。

様々な場面でICT機器を積極的に活用することで、自分の思いや考えを伝え、友だちの考えを受け入れることを通して、「主体的・対話的で深い学び」を推進するとともに、個別最適な学びを進められるようにしていく。

さらに、ブロック化による学校支援事業や校長経営戦略予算、各種事業を活用し、教育活動を充実させていく。

児童が、学校に行くのは楽しいと思うことができるよう各学級における児童への適切な支援を進めていくとともに、児童の自尊感情を高めるために、人間関係の充実、興味関心を引き出す授業の実施、学校環境の充実、行事やイベント等の充実自己肯定感の育成などの取組を進めること。

【 全体の概要 】

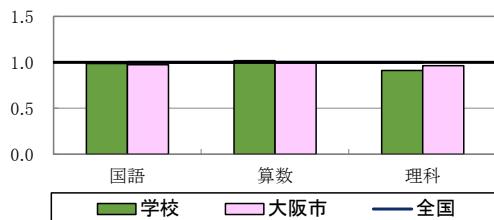
平均正答率(%)

	国語	算数	理科
学校	66	59	52
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

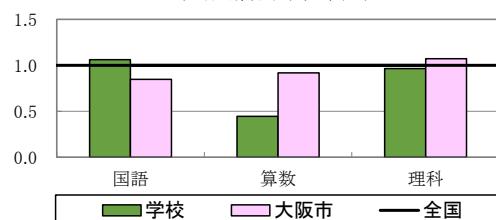
平均無解答率(%)

	国語	算数	理科
学校	3.5	1.6	2.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



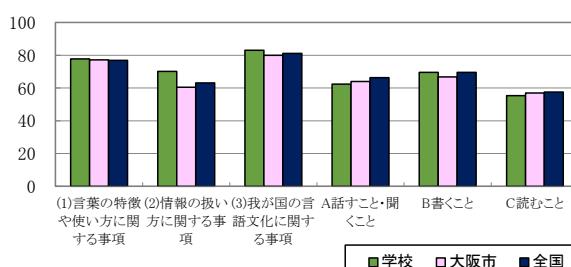
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	77.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	70.2	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	83.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	62.4	64.0	66.3
B 書くこと	3	69.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	55.3	56.9	57.5

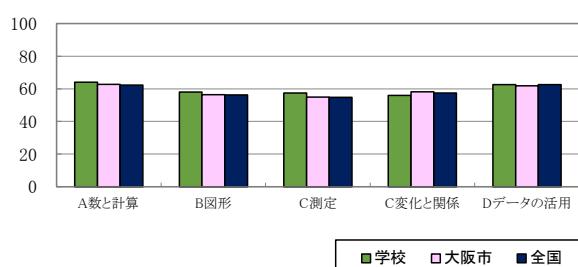
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	64.1	62.7	62.3
B 図形	4	58.0	56.4	56.2
C 測定	2	57.4	54.9	54.8
C 変化と関係	3	56.0	58.2	57.5
D データの活用	5	62.6	61.9	62.6

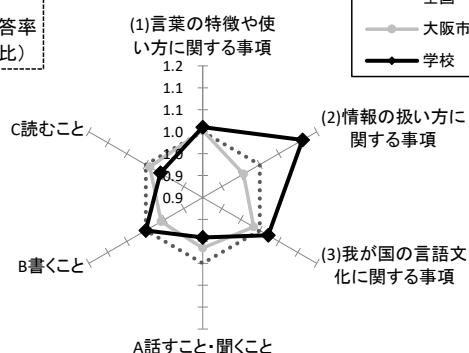
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



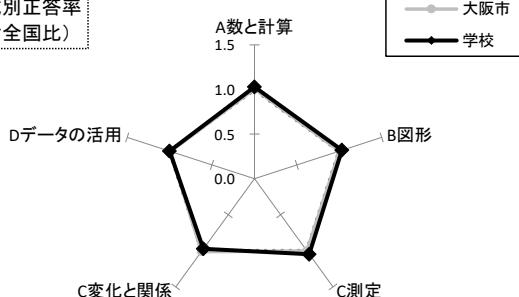
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

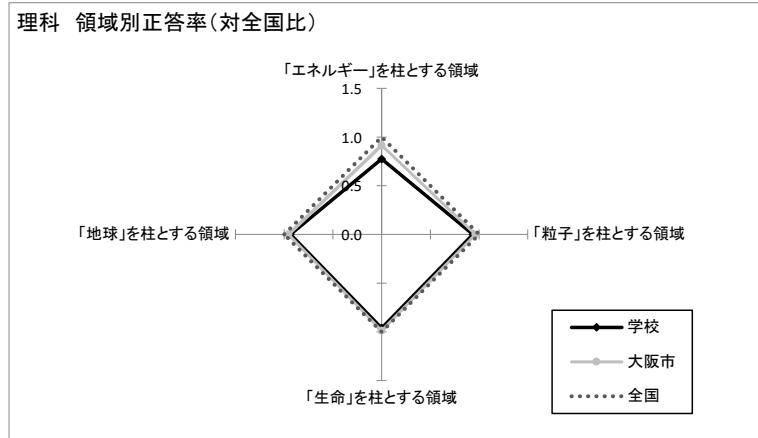
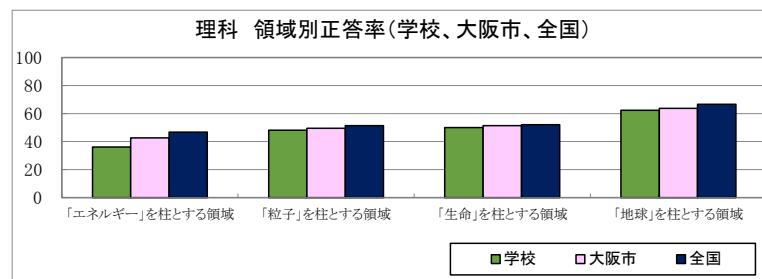


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	36.2	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	48.2	49.5
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	50.0	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	62.4	63.8



児童質問より

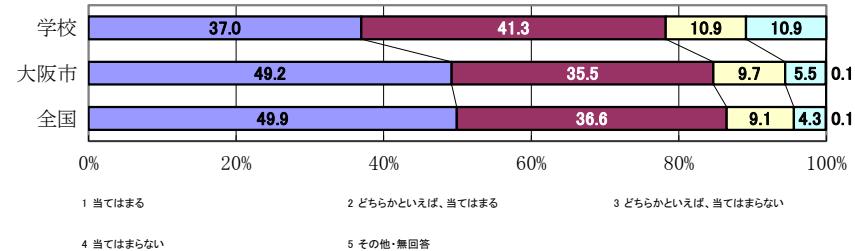
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号

質問事項

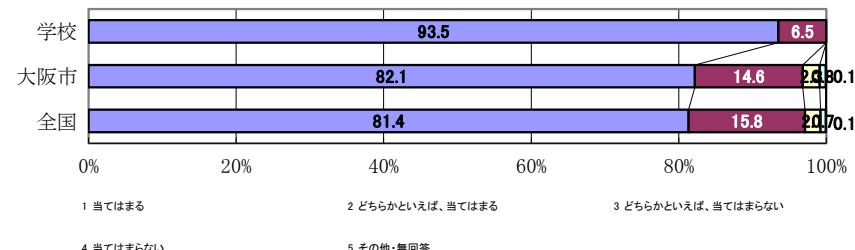
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



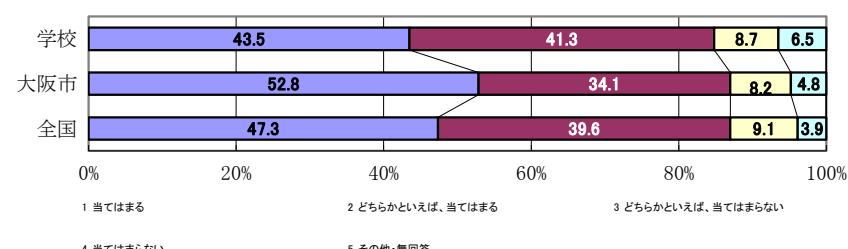
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



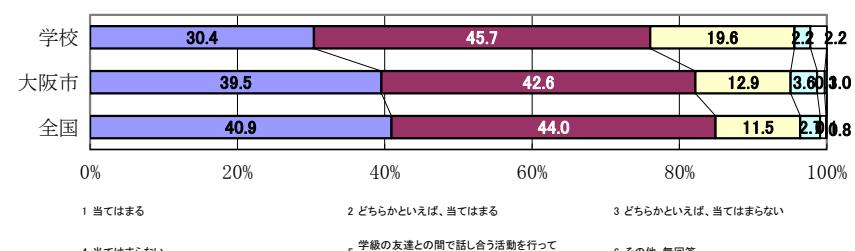
5

自分には、よいところがあると思いますか



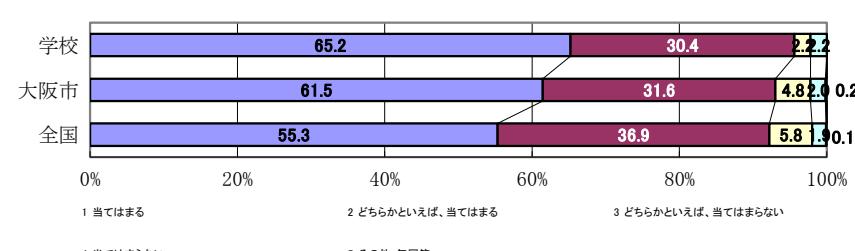
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか



6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



学校質問より

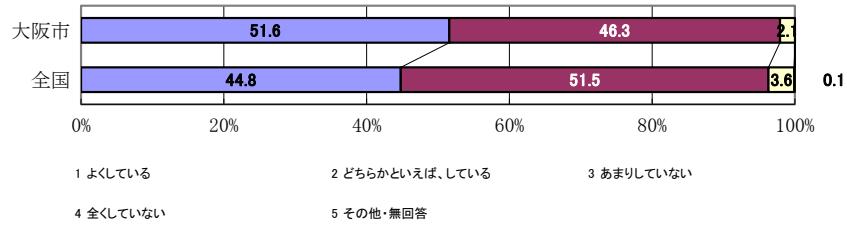
□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

質問番号
質問事項

17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

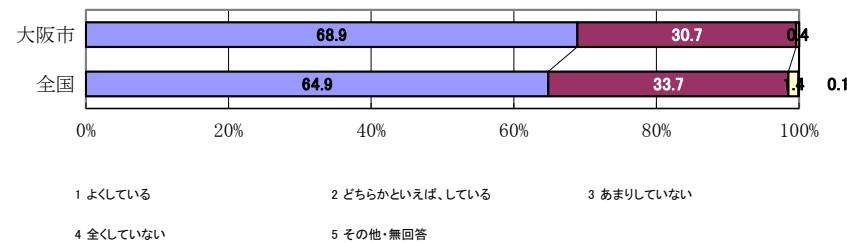
学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

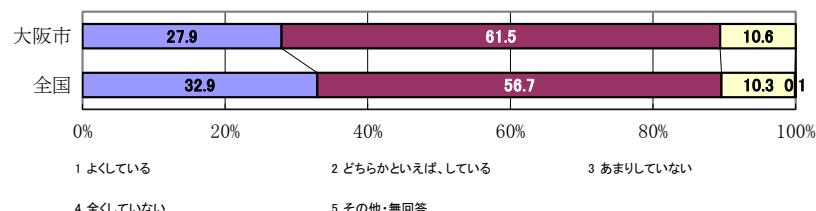
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的に・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

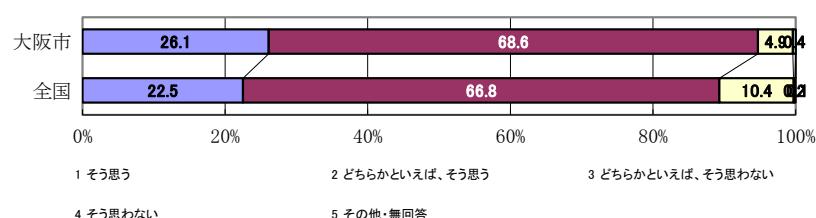
学校 「あまりしていない」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

